

2006/08/11-13:03

【一点视界】Janet 編集長 鈴木美勝

コスチュームデザイナー・北山さん、「ペンギン・タンゴ」で参加＝NY国際演劇祭



毎年夏、世界の演劇のプロたちが結集、ニューヨーク市マンハッタンで開催される北米最大の演劇祭「ニューヨーク国際FRINGE・フェスティバル」(11日から27日まで開催)。第10回の今年は、セントラルパーク動物園で起きた実話を題材にした「ペンギン・タンゴ」の舞台セット及びコスチューム・デザイナーとして、北山道子さん(マイアミ大学准教授)が参加している。

北山さんは、一昨年のFRINGE・フェスティバルで、「オデッセイ・ダイド・フロム・エイズ」(薬の副作用などによってオデッセイのヒーローと思い込んだ入院中のHIVポジティブの少年が、夢と現実を行き来し、亡くなるまでの間、病魔との戦いを繰り広げる物語)の舞台セットとコスチュームを担当、ベスト・アンサンブル賞を受賞した。

今回、仲間と共に出品した「ペンギン・タンゴ」は、一昨年、ニューヨークのセントラルパーク動物園で起きたフンボルト・ペンギンのペアをめぐる実際の出来事を基にした物語。ある日、石を大事そうに抱きかかえ始めたペンギンを見て、不思議に思った飼育係が、そのペンギン・ペアの性別判定DNA検査を実施した。すると、ペアは両方ともオス。電気ショックや他の科学的手法を駆使して、何とかペアを引き離しにかかった



北米最大の演劇祭「NY国際FRINGE・フェスティバル」に参加するセット&コスチューム・デザイナー北山道子さん (東京・赤坂プリンスホテルのレストラン、鈴木美勝撮影)

が、ペンギン・ペアは抵抗。結局は、様々な試行錯誤を経てタンゴちゃんという赤ちゃんペンギンが誕生する。芝居はこの間に演じられた人間とペンギン・ペアとの“死闘”を、ペンギンの目を通してコミカルなタッチで描いている。

ペンギンなどのコスチュームや動物園のセットを手懸けた北山さんが、デザインのモチーフを語ってくれた。

「コスチュームは、各キャラクターの個性に合わせ、人間的であり、それでいてペンギン、といった感じにデザインしました。ピンクのキャラクターはフラミンゴ。セットの動物園は、氷をモチーフしたいくつものキューブが、違う形に動かされて、それぞれのシーンを構成していきます。後ろの壁にある、窓や、ドアを使って、ドタバタのコメディィー感を演出しました」

千葉県の上野毛高校を卒業後、1993年に単身渡米、ノースカロライナ州やオハイオ州の大学で演劇を学んだ。現在は、フロリダ州のマイアミ大学で演劇芸術の講座を担当、アーティストの卵たちの教育に当たっている。将来は、ブロードウェイでの活躍を夢見る新進気鋭の日本人デザイナーだ。祖父は、故北山愛郎元衆院議員。(了)

(C)時事通信社